Number.13
8月10日（日）発行
当日の感動をすぐお届け!!
特別協賛：TOSHIBA
フェスタサマーミューザ KAWASAKI 2014
MUZA KAWASAKI 10th Anniversary SYMPHONY HALL
発行所：ミューザ川崎シンフォニーホール
〒212-8557　川崎市幸区大宮町1310
TEL044-520-0200 サマーミューザ 検索

ほぼ日刊サマーミューザ

Hobo Nikkan Summer Muza

三大交響曲、真剣勝負@しんゆり

熱演する、円光寺雅彦　　8月9日（土）東京交響楽団　撮影：青柳聡

出張!サマーミューザ、一週間前の神奈川フィルによる三大協奏曲に続き、東京交響楽団による「三大交響曲」。近づく台風11号の影響か、真夏の太陽も一休み、にわか雨も降って幾分過ごしやすい午後の新百合ヶ丘。会場のテアトロ・ジーリオ・ショウワは、ほぼ満席。指揮は、すでにベテランの風格を備えた円光寺雅彦。

シューベルト「未完成」で開幕。小さめの12型編成だが、密度が濃く重々しい音色で、ゆっくり丁寧に音を紡いでいく。あれ?舞台奥中央にセットされたティンパニに奏者がいないのに、太鼓の音が聞こえてきた・・・舞台の下手寄りに別途バロック・ティンパニがセットされ、温かみのある音色を奏でている。続くベートーヴェンの「運命」は、冒頭から温厚な円光寺も唸る、入魂の（ン）ダダダダーン!　たっぷり充実した中低弦、息の合った木管群。そしてトランペットは、通常のバルブのある楽器ではなく、2本ともナチュラル・トランペット。ティンパニ同様、オーケストラの強いコダワリと真剣味が伝わってきた。

後半のドヴォルザーク「新世界より」、注目の第2楽章ではイングリッシュ・ホルンが大活躍。マエストロの安定したタクトに、テンポの変わり目もオーケストラは安心してついて行く。コンサートマスターの水谷晃が、全身を使って巧みにリードし、力強いクライマックスを迎え、会場は拍手大喝采となった。

帰路につくお客様の顔は、一様に満足そう。開演前の雨も止み、駅へ向かう大行列が道幅一杯に続いていく、和やかな夕方であった。

事業課　山本 浩

［特別寄稿］井上道義さんからのメッセージ

©Orchestra Ensemble Kanazawa

こんにちは。道義です。

突然ですが、僕は16才で原付1種の免許を交付してもらい、極めて実用的な・・・でも橙色の中古バイクを父に拝み倒し買ってもらいました。自宅のあった世田谷から真鶴岬まで地図を頼りに走ったとき、途中で通った神奈川県の川崎近辺は田んぼや工場だらけ。でも、そこで生きている人はみんな明日を見て、上を向いていて、手元の道案内ナビなぞは見ていませんでした。

その明日が今現実となり、素晴らしいホール「ミューザ川崎」に人々が集まっている。僕も同じ頃自分の人生を賭けて、指揮者になった。そして、今回このサマーミューザの「トリ」を務めるはずで楽しみにしていたのです。幕開けの指揮者は、僕の後にスカラ座のコンクールで優勝したスダーンだったし、2回前に優勝したインバルも振ったし…。でも、今回は現田さんに託します。

僕は幸いなことに、どんどん治っている。声も出始めたし、食べ物も口から食べ始めました。10キロ痩せたからまだ元気な姿ではないけれど。僕がこの恐ろしい病の経験をしたことは、きっと、これから、お互いが今日でファイナルにならないための仕組まれた出来事だったのだと思いたい。リハビリをしっかり行って、10月に復帰が出来るように努力したいと考えています。

2014年8月10日
井上道義

井上道義氏は、当初、本日のフィナーレコンサートの指揮を予定しておりましたが、病気療養のため、活動を一時休止しております。今回、特別にメッセージをいただきました。（編集部）

マエストロ・円光寺雅彦

マエストロからサインをいただきました!ありがとうございました。

8/9 東京交響楽団

お客様の声から♪

フェスタサマーミューザは他の都市にもあまり見かけない良い企画です。特に、短期間に数々のオーケストラが演奏してくれること、料金も抑えられていることは大変魅力的です。ずっと続けてください。（71歳・無職・ヒデカワサキ）／3つのポピュラーな交響曲をそれぞれの雰囲気を大事にした演奏を聴ける機会は滅多になく今日はここ数年にない幸せなひとときを過ごすことができた。ドボのラストで涙が浮かんできました。（75歳・横浜のトム）／「運命」の長い古そうなトランペットが気になります。あれはいったい何？（50歳・会社員・足柄くん）

女子レポ!

女子クラ部 & 12 Violinists

【東京交響楽団@しんゆり】
「未完成交響曲」から始まり、エネルギッシュな「運命」、私も大好きな「新世界より」ではドボルザークの世界へと引き込まれました。
by 小泉奈美（12人のヴァイオリニスト）

今日の公演は交響曲の豪華三本立て!新世界よりでは「家路」のメロディーが懐かしく、身も心も酔いしれました!
by YUMI（女子クラ部レポーター）

【昭和音楽大学】
大学生ならではのフレッシュな演奏と、ジャズピアノの細川さんのラプソディインブルーは素晴らしかったです!!
by 白澤美佳（12人のヴァイオリニスト）

サマーミューザおなじみの昭和音大の皆さんと真っ赤な衣装の指揮齊藤さんは若くエネルギッシュな空間をあっという間に作り、最後まで魅了されっぱなしでした!
by みき（女子クラ部レポーター）

レビュー協力：女子クラ部／http://www.joshicla.com　12人のヴァイオリニスト／http://www.j-two.co.jp/c-ensemble/

主催：川崎市、ミューザ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）　後援：川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟
平成26年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

若さ弾ける演奏で、会場を圧倒！

8月9日（土）　昭和音楽大学　撮影：青柳聡

セントラル愛知交響楽団常任指揮者・齊藤一郎が燃えるような赤い衣装で現れると、会場はドッと沸いた。9日に登場したサマーミューザ常連の昭和音楽大学オーケストラは、「夢と情熱、ある芸術家の物語」と題し、若さ弾けるフレッシュな演奏を披露した。

前半は、20世紀アメリカを代表する音楽家2人の楽曲。アメリカ民謡を取り入れた作風のコープランド「エル・サロン・メヒコ」と「のだめカンダービレ」でも有名な“シンフォニックジャズ”のガーシュイン「ラプソディ・イン・ブルー」だ。これらの曲が誕生した時代は、アメリカ資本主義が右肩上がりに急成長を遂げた時期と重なる。複雑ながらノリノリで勢いのあるこの2曲は、音大生である彼らのサウンドにピッタリ。オーケストラは躍動するような音色で会場を包み込んだ。

「ラプソディ・イン・ブルー」では、2013年「モントルー・ジャズ・フェスティバル・ソロ・ピアノ・コンペティション」日本人女性初のファイナリストとなったピアニスト・細川千尋とも共演。現在も昭和音楽大学付属ピアノアートアカデミーに在籍する彼女は、強さとしなやかさが交錯するようなプレイで観客を魅了した。

後半は、約55分に及ぶ“THEオーケストラ”とも言えるベルリオーズの「幻想交響曲」だ。タイトル通り、交響曲全体が“幻想的”なこの楽曲。前半とうってかわり黒のタキシードでタクトを振った齊藤は、「舞踏会」、「野辺の風景」、「断頭台の行進」など物語を呼び起こすような音楽を演出した。

「ブラボー」。観客の大喝采と共に、昭和音楽大学のコンサートは幕を閉じた。

ライター　梶原誠司

マエストロ・齊藤一郎と ソリストの細川千尋さん

お二人にメッセージをいただきました。
Best hall in Japan（齊藤一郎）
Thanks!ありがとう！（細川千尋）

8/9 昭和音楽大学

お客様の声から♪

とにかくピアノの細川さんがすごかったと思います。最後の幻想は特に圧巻でした。（63歳・会社員・平岡秀美）／本日のピアニストのアンコール曲に泣きました…。昭和音大のオケ、若々しくとてもうまいです！いつも感動しています！（40歳・会社員）／ラプソディーインブルーのCIのソロが良かった。ピアノもすごく良く響いていてキレイだった。（14歳・中学生・いっちー）／初めてオーケストラをみにきてコントラバスなど低音が、めだってダイナミックでよかった!!（16歳・学生・まゆ）／大変素晴らしい演奏でした。夫はラプソディーインブルーが良かったと、私は幻想の方の舞踏会の音楽が大変懐かしかったです。（55歳・会社員・比路木）

Goods muza original 2014 new model 夏新作!

今年のおススメはコレッ

ミューザオリジナルグッズ販売中!

●サマーミューザチケットホルダー 640円（税込）
●トートバッグ 540円（税込）

ミューザ川崎シンフォニーホール内ショップ「プレリュード」にて発売中。

チケットホルダー＆トートバッグ セットで1,000円！（税込）

セット販売は本日10日まで！
ミューザ内特設カウンターにて。
今後は単品での発売のみとなります。
ぜひサマーミューザ期間中にお求めを

今だけお得!

友の会キャンペーン実施中

キャンペーン中の特設ブースでは、たくさんの方と交流させて頂きました。入会して下さったお客様、声をかけて下さった会員様、ありがとうございました！（友の会担当）

スタッフ日誌

今回、サマーミューザでは初の試みとなった、「ほぼ日刊サマーミューザ」。「ほぼ」がつくのは、公演のない日には発行をお休みするからで、決して、発行できなかった時の逃げ…ではございません！

とは言っても、最初は本当に毎日ちゃんと無事に発行が出来るのか、という不安もあったのも事実。危うく発行ができなくなるようなこともあったり（！）、印刷機がなかなか動いてくれず、公開リハーサルの開場時刻に間に合わなかったこともありました。

事務室での「こんなのやりたいよね～」というたわいもない会話から突如始まった本プロジェクト（？）でしたが、素晴らしい公演レビューを提供して下さった音楽ライターの皆様、食レポやスタッフ日誌の執筆に積極的に手をあげて下さったミューザスタッフの皆さん、そして何よりも毎日「ほぼ日」の発行を楽しみにしてくださっているお客様の声が非常に励みになりました。本当に本当にありがとうございました。

そして、「ほぼ日」は本日が最終号…ではありません！本日のフィナーレコンサートの公演レビューが載った総集編を発行予定。最後の最後まで、どうぞよろしくお願いいたします！

広報営業課　す

当日の感動をすぐお届け!!
日刊サマーミューザ
Hobo Nikkan Summer Muza
朝刊

「ほぼ日刊サマーミューザ」のバックナンバーは、ミューザWebサイトからもご覧いただけます。
http://www.kawasaki-sym-hall.jp/